

北池の野鳥

2017年8月～2018年7月

(2年目)

2018年8月

衣 笠 誠 一 郎

目次

1.	はじめに	4
2.	北池で見られた野鳥	5
2.1.	野鳥の種類	5
2.2.	野鳥の特徴	7
2.2.1.	アオサギ	7
2.2.2.	ダイサギ	7
2.2.3.	コサギ	7
2.2.4.	アマサギ	7
2.2.5.	カイツブリ	7
2.2.6.	カルガモ	7
2.2.7.	カワウ	8
2.2.8.	バン	8
2.2.9.	ゴイサギ	8
2.2.10.	イソシギ	8
2.2.11.	カワセミ	8
2.2.12.	セイタカシギ	8
2.2.13.	アオアシシギ	8
2.2.14.	ササゴイ	8
2.2.15.	コアジサシ	9
2.2.16.	オオヨシキリ	9
2.2.17.	ハシビロガモ	9
2.2.18.	ヒドリガモ	9
2.2.19.	オカヨシガモ	9
2.2.20.	コガモ	9
2.2.21.	マガモ	9
2.2.22.	キンクロハジロ	9
2.2.23.	ホシハジロ	9
2.2.24.	オナガガモ	10
2.2.25.	ミコアイサ	10
2.2.26.	オオバン	10
2.2.27.	ヘラサギ	10
2.2.28.	セグロカモメ	10
2.2.29.	タシギ	10
2.2.30.	カンムリカイツブリ	10
3.	毎月の野鳥	11
3.1.	2017年8月	11
3.2.	2017年9月	11
3.3.	2017年10月	12
3.4.	2017年11月	13
3.5.	2017年12月	14
3.6.	2018年1月	15

3.7.	2018年2月	16
3.8.	2018年3月	17
3.9.	2018年4月	18
3.10.	2018年5月	19
3.11.	2018年6月	20
3.12.	2018年7月	21
4.	気温	22
5.	水位の変化	24
6.	カワウ	26
7.	ガンカモ類生息調査	29
8.	考察とまとめ	30
8.1.	野鳥の種類	30
8.2.	野鳥が北池に飛来する理由	30
8.2.1.	エサがあるから	30
8.2.2.	営巣のため	30
8.2.3.	越冬のため	30
8.3.	北池の環境	30
9.	おわりに	31

1. はじめに

2016年8月に始めた北池の野鳥観察は2年になる。2年目の、2017年8月～2018年7月の期間の観察記録をまとめ、1年目との違いについても触れる。

環境省自然環境局生物多様性センターによる、全国一斉のガンカモ類の生息調査が毎年行われており、東播磨地域（明石市、加古川市、高砂市、加古郡稲美町、同播磨町）の集計結果と、北池で見られるカモ類との比較を行う。

2. 北池で見られた野鳥

2.1. 野鳥の種類

2016年8月以来、2年間に北池で見られた野鳥（水辺の鳥）は30種類。

表 北池で見られた野鳥（水辺の鳥）

名 前	鳥 類 分 類		区分	北池で見られる時期
アオサギ	ペリカン目	サギ科	留鳥	通年
ダイサギ	〃	〃	〃	通年（冬～春少ない）
コサギ	〃	〃	〃	通年
アマサギ	〃	〃	夏鳥	7月に一度だけ
カイツブリ	カイツブリ目	カイツブリ科	留鳥	10～11月除く
カルガモ	カモ目	カモ科	〃	通年
カワウ	カツオドリ目	ウ科	〃	通年
バン	ツル目	クイナ科	〃	4～6月、月に数日
ゴイサギ	ペリカン目	サギ科	〃	稀
イソシギ	チドリ目	シギ科	〃	通年
カワセミ	ブッポウソウ目	カワセミ科	〃	10～12月、月に数日
セイタカシギ	チドリ目	セイタカシギ科	旅鳥	10月、月に数日
アオアシシギ	〃	シギ科	〃	10月、月に数日
ササゴイ	ペリカン目	サギ科	夏鳥	6月、月に数日
コアジサシ	チドリ目	カモメ科	〃	稀
オオヨシキリ	スズメ目	ヨシキリ科	〃	5～
ハシビロガモ	カモ目	カモ科	冬鳥	10～4月
ヒドリガモ	〃	〃	〃	10～3月
オカヨシガモ	〃	〃	〃	11～4月
コガモ	〃	〃	〃	11～5月
マガモ	〃	〃	〃	10～4月
キンクロハジロ	〃	〃	〃	12～4月
ホシハジロ	〃	〃	〃	3～4月
オナガガモ	〃	〃	〃	稀、11月に一度だけ
ミコアイサ	〃	〃	〃	1～2月
オオバン	ツル目	クイナ科	〃	12～5月
ヘラサギ	ペリカン目	トキ科	〃	11月
セグロカモメ	チドリ目	カモメ科	〃	11月に一度だけ
タシギ	〃	シギ科	〃	1～4月、稀
カンムリカイツブリ	カイツブリ目	カイツブリ科	〃	1月数日のみ

留鳥： 季節による移動をしないで、年間を通して同じ地域にすむ鳥。

夏鳥： 渡り鳥のうち、春から初夏にかけて渡来して繁殖し、秋に南方へ渡る鳥。

旅鳥： 繁殖地と越冬地の間を往復する途中、春・秋に定期的に姿を見せる鳥。

冬鳥： 渡り鳥のうち、秋から冬にかけて渡来し、春に北方へ渡る鳥。

白いサギはダイサギ、チュウサギ、コサギの3種類あり、チュウサギとダイサギの識別は難しく、白

サギでコサギでないものをダイサギとしている。

1年目（2016年8月～2017年7月）に見られたのは、留鳥9種類、夏鳥3種類、冬鳥8種類、計20種類（下図、見られなかった鳥はグレーでカバー）。



図 2016年8月～2017年7月に見られた野鳥



図 2017年8月～2018年7月に見られた野鳥

2年目（2017年8月～2018年7月）に北池で見られた野鳥は、留鳥10種類、旅鳥2種類、夏鳥4種類、

冬鳥 13 種類、計 29 種類（下図、留鳥や夏鳥等の分類は、東播地域のため池とその周辺の野鳥観察手帳に従う）。

1 年目に見られたが 2 年目に見られなかったのは 1 種類：

ミコアイサ。

1 年目には見られず 2 年目で新たに見られたのは 9 種類：

カワセミ、セイタカシギ、アオアシシギ、ホシハジロ、オナガガモ、ヘラサギ、セグロカモメ、タシギ、カンムリカイツブリ。

2.2. 野鳥の特徴

2.2.1. アオサギ

アオサギはペリカン目サギ科の、全長 95 cm にもおよぶ大きなサギで、日本全国に分布する。北海道では夏鳥。雌雄同色、後頭に長い冠羽がある。体上面は灰色、背と肩羽に灰色の飾り羽がある。風切、初列雨覆、小翼羽の一部が黒く、その他は灰色。体下面は白。婚姻色ではくちばしの付け根と足が赤くなる。グワーと鳴く。北池で一年を通して見られるが、1～2 月頃は見られない日が多い。

2.2.2. ダイサギ

ダイサギはペリカン目サギ科の、全長 80～104 cm の大きな白いサギで、年間を通して見られるので留鳥とされているが、夏鳥として飛来するものと、冬鳥として大陸から渡来するものがあるらしい。全身が白く、雌雄同色。夏羽はクチバシが黒く、胸と背に長い飾り羽が生じる。婚姻色では、虹彩と足に赤みを帯びる。冬羽はクチバシが黄色。ガァーと鳴く。北池で一年を通して見られるが、1～5 月は見られない日が多い。

2.2.3. コサギ

コサギはペリカン目サギ科の、全長 61cm、白いサギとしては小型で、留鳥として本州以南に生息する。全身が白く、クチバシは通年で黒い。足は黒く、足指は黄色。グァー、グァーと鳴く。北池で一年を通して見られるが、3～5 月は見られない日が多い。

2.2.4. アマサギ

アマサギはペリカン目サギ科の、全長 50cm のサギ類では最も小さい。夏鳥として本州以北に渡来し、九州以南で越冬する。頭部から首、胸にかけて橙黄色で、他は白。北池で見られたのは 1 度だけで、2018 年 7 月 9 日に、北池上空を西から東へ通過していった。

2.2.5. カイツブリ

カイツブリはカイツブリ目カイツブリ科の、全長 26cm のムクドリ大の小さな鳥で、留鳥として本州中部以南に生息する。夏羽は頭部が黒く、頬から側頭は赤褐色。冬羽は夏羽に比べ色が淡く、頬から側頭の赤みはない。ヨシの茎に浮巣をつくり繁殖する。北池では 2016 年と 2017 年の 2 年とも、夏にヒナが見られた。北池で一年を通して見られるが、水位が下がる 10～11 月は見られず、他の池に避難しているよう。

2.2.6. カルガモ

カルガモはカモ目カモ科の、全長 61cm、カモ類のなかで比較的大型、留鳥として全国の水辺に生息する。腰の部分に白い三日月模様が目立つ。クチバシは黒で先端が黄色。グエツ、グエツと鳴く。北池で一年を

通して見られるが、5～9月は見られない日が多い。

2.2.7. カワウ

カワウはカツオドリ目ウ科の、全長 81cm、留鳥として全国に分布し、東北地方以北では夏鳥。全体に黒色で背中には光沢のある茶褐色。繁殖期に頭部や腰に白い羽が生じる。営巣地と採食地を群れで往復するとき、列をなして飛ぶ。北池で一年を通して見られ、特に水位が下がる 10～11 月は多く見られる。

2.2.8. バン

バンはツル目クイナ科の、全長 32cm、本州中南部では留鳥、本州北部では夏鳥。雌雄同色、ハト大で額からクチバシにかけて赤く、クチバシの先端が黄色。体は全体に黒。北池では 4～6 月頃に数日間程度見られた。

2.2.9. ゴイサギ

ゴイサギはペリカン目サギ科、留鳥として本州以南に分布。全長 58cm、カラス大で上面は黒色、赤い目、クチバシは黒く、足は黄色。飛びながらグアッグアッと鳴く。北池では稀にしか見られない。一年目は 7 月に 1 度だけ、二年目は 13 度見られている。

2.2.10. イソシギ

イソシギはチドリ目シギ科、本州中南部では留鳥として水辺に分布する。本州中北部では夏鳥。全長 20cm、雌雄同色で、上面は緑がかった褐色、腹の白が肩先に切れ込んで見える。尻を上下に振り、チーリーと鳴く。北池では 10 月～5 月にかけて見られることが多い。6 月～9 月はほとんど見られない。

2.2.11. カワセミ

カワセミはブッポウソウ目カワセミ科、本州以南で留鳥として分布する。北海道では夏鳥。全長 17cm ずめ大、背が青で腹がオレンジ、クチバシが大きく足が短い。カワセミは北池で見られるのは稀である。二年目の 10 月末～12 月にかけて、7 度だけ見られた。

2.2.12. セイタカシギ

セイタカシギはチドリ目セイタカシギ科、ヨーロッパ、アジア、アフリカなどに広く分布する。東京湾や愛知県などで留鳥として繁殖する例もある。全長 37cm のピンク色の長い足で背が高い。セイタカシギは旅鳥で、秋の渡りのシーズンに水位が下がった北池に立ち寄ることがある。二年目の 10 月に 3 日間連続で見られたのみである。

2.2.13. アオアシシギ

アオアシシギはチドリ目シギ科、ユーラシア大陸北部で繁殖し、冬季は東南アジア、オーストラリア、インド、アフリカなどで越冬する。春と秋の渡りの時に、旅鳥として飛来する。全長 33cm、雌雄同色、クチバシは黒くやや上に反る。足は青緑色。アオアシシギは、秋の渡りのシーズンに水位が下がった北池に立ち寄ることがある。二年目の 10 月に 1 日だけセイタカシギと一緒にいるところが見られた。

2.2.14. ササゴイ

ササゴイはペリカン目サギ科、ユーラシア大陸南部、東南アジア、アフリカなどに分布する。夏季に本州や四国に飛来し、冬季は九州以南で越冬する、または留鳥として繁殖。全長 52cm、翼に笹の葉模様がある。

ササゴイは夏鳥で、北池では稀であり、一年目の6月に3度、二年目は6月～7月に2度だけ見られた。

2.2.15. コアジサシ

コアジサシはチドリ目カモメ科、ユーラシア大陸、東南アジア、オーストラリア、アフリカなどに分布する。夏季に本州以南に飛来する。全長 25cm、雌雄同色、白いツバメのように見える。クチバシと足が黄色。コアジサシは、北池では一年目の9月と6月に一度ずつ、二年目は7月に数度見られた。

2.2.16. オオヨシキリ

オオヨシキリはスズメ目ヨシキリ科、ユーラシア大陸東部、東南アジアに分布し、九州以北に夏鳥として飛来する。全長 18cm、雌雄同色、スズメより大きく、にぎやかにさえざる。口の中はオレンジ～赤い。北池では5月～7月にかけて見られる。

2.2.17. ハシビロガモ

カモ目カモ科、ユーラシア大陸中部～北部、北アメリカ、東南アジア、インド北部などに分布し、冬鳥として日本に飛来する。全長 51cm、カルガモより少し小さく、雄は白い胸と赤茶色の腹が特徴。水面を群れでぐるぐる回りながらエサをとることがある。

2.2.18. ヒドリガモ

カモ目カモ科、ユーラシア大陸中部～北部、東南アジア、インド北部に分布し、冬鳥として日本に飛来する。全長 49cm、雄は頭部から首にかけて赤褐色、額から頭頂部がクリーム色。

2.2.19. オカヨシガモ

カモ目カモ科、ユーラシア大陸中部、東南アジア、インド北部に分布し、冬鳥として日本に飛来する。全長 50cm、雄は頭部から首にかけて褐色、体は灰色。肩羽は褐色。

2.2.20. コガモ

カモ目カモ科、ユーラシア大陸、東南アジア、北アメリカなどに分布し、冬鳥として日本に飛来する。全長 39cm、カモ類の中で最小。頭部は茶色で緑色の帯があり、尻の横に黄色の三角模様がある。

2.2.21. マガモ

カモ目カモ科、ユーラシア大陸、東南アジア、北アメリカなどに分布し、冬鳥として日本に飛来する。全長 59cm、カルガモとほぼ同じ大きさ。雄のクチバシは黄色、頭は緑色の光沢がある黒、白い首輪がある。体は灰白色。

2.2.22. キンクロハジロ

カモ目カモ科、ユーラシア大陸中部～北部、東南アジア、インド北部に分布し、冬鳥として日本に飛来する。全長 44cm、黒白のツートンカラー、後頭部に冠羽があり、クチバシは青灰色で先端が黒、目は黄色。

2.2.23. ホシハジロ

カモ目カモ科、ユーラシア大陸中部、東南アジア、インド北部に分布し、冬鳥として日本に飛来する。全長 45cm、雄の頭部は赤みのある茶色、胸は黒い。クチバシは青灰色で先端が黒。上面と脇は灰色に黒褐色の細かな縞模様がある。

2.2.24. オナガガモ

カモ目カモ科、ユーラシア大陸中部～北部、東南アジア、インド北部、アフリカ中部、北アメリカなどに分布し、冬鳥として日本に飛来する。全長 75cm、首と尻尾が長く、頭部は黒褐色、上面と脇は灰色、首から後頭部にかけて食い込んだ白い線が特徴。

2.2.25. ミコアイサ

カモ目カモ科、ユーラシア大陸中部～北部、中国に分布し、冬鳥として日本に飛来する。全長 44cm、雄は全体に白くパンダのよう。雌は頭が茶色、喉から側頭にかけて白、体は灰白色。

2.2.26. オオバン

オオバンはツル目クイナ科、ユーラシア大陸中部、東南アジア、インド、オーストラリアなどに分布し、冬鳥として日本に飛来する。全長 39cm、全身が黒く、額板からクチバシにかけて白。

2.2.27. ヘラサギ

ペリカン目トキ科、ユーラシア大陸南部、インドなどに分布し、冬鳥として日本に飛来する。全長 86cm、全身が白く、クチバシと足が黒。幼鳥のクチバシは肉色みを帯びた黒、風切の先端と初列風切が黒い。北池では二年目の 11 月 8 日～22 日の間毎日見られた。北池をねぐらとしており、日出後に 30 分ほどエサを食べた後、他の池に飛んでゆき、夕方暗くなってから北池に戻っていたようである。

2.2.28. セグロカモメ

セグロカモメはチドリ目カモメ科、ユーラシア大陸沿岸部、北アメリカなどに分布し、冬鳥として日本に飛来する。全長 61cm、上面は青灰色、下面は白、頭部から胸に灰褐色斑がある。クチバシはオレンジ色で先端が黄色。北池では稀で、二年目の 11 月に一度だけ見られた。

2.2.29. タシギ

タシギはチドリ目シギ科、ユーラシア大陸中部～北部、東南アジア、インド、アフリカ、南北アメリカなどに分布し、冬鳥として日本に飛来する。背や肩羽は黒い軸斑内に赤褐色の模様があり、クリーム色の羽縁で縁取られ線状に見える。北池では稀で、二年目の 1 月と 4 月に数度見られた。

2.2.30. カンムリカイツブリ

カンムリカイツブリはカイツブリ目カイツブリ科、ユーラシア大陸南部、インド北部などに分布し、冬鳥として日本に飛来する。全長 56cm、首が長く白い。額から体上面は黒い。北池では稀で、二年目の 1 月に二日間だけ見られた。

3. 毎月の野鳥

3.1. 2017年8月

この月の観察は休む日なく 31 日間。見られた野鳥は、留鳥 7 種類。



ほぼ毎日： コサギ、カイツブリ
2日に1日ほど： アオサギ、カワウ
数日だけ： ダイサギ、カルガモ、ゴイサギ

水位は月半ばまでほぼ満水（160cm）で、月末にかけて少しずつ低下してゆき、31日に127cm。コサギはほぼ毎日のように見られたが、1羽だけの日がほとんどで、複数見られたのは4日だけ。

- アオサギが見られたのは15日間、コサギと同じように1羽だけの日がほとんど。ダイサギは5日間見られ、いずれも1羽のみ。
- サギ類は水辺に立って魚を狙うが、満水に近い状態では餌をとるのが難しいようで、北池に飛来する数が少ない理由なのかもしれない。
- カルガモは2日間だけ見られた。
- ゴイサギは4日間見られた。成鳥と幼鳥と一緒に見られた日が1日あり、残りの3日は幼鳥1羽のみ。
- カイツブリは8月9日までは1羽または2羽の成鳥が見られたが、10日に3羽のヒナが加わり、計5羽になった。

3.2. 2017年9月

この月の観察は1日～14日の14日間。見られた野鳥は、留鳥 6 種類。



ほぼ毎日： アオサギ、コサギ、カイツブリ、カワウ
数日だけ： ダイサギ、イソシギ

水位は8月に続いてすこしずつ低下し、9月5日に109cmに。その後降雨によりすこしずつ上昇し、14日に150cmまで回復した。

- アオサギ、コサギ、カイツブリ、カワウはほぼ毎日見られた。ダイサギは4日間だけ、イソシギは1日だけ見られた。
- カルガモとゴイサギは見られなかった。

3.3. 2017年10月

この月の観察は6日から31日までの毎日。見られた野鳥は、留鳥9種類、旅鳥2種類、冬鳥3種類、計14種類。



ほぼ毎日： アオサギ、ダイサギ、コサギ、カルガモ、カイツブリ（19日まで）、カワウ（中旬以降）
 数日だけ： ゴイサギ、イソシギ、カワセミ、セイタカシギ、アオアシシギ、ハシビロガモ、ヒドリガモ、マガモ
 一日だけ： ゴイサギ

水位は9月より低下が続き、10月20日に15cmになり、台風による降雨のため23日に130cmにまで上昇したが、堰の開放により30～40cmに低下した。

- アオサギ、ダイサギ、コサギはほぼ毎日1～数羽見られた。
- カルガモは9月には見られなかったが、10月は毎日見られ、30羽以上の日もあった。
- カワウは24日までは数羽程度で、数日連続して見られない日もあったが、25日以降数が増え、31日には60羽となった。
- カイツブリは9日までヒナが見られたが、10日以降ヒナは見られず1～2羽の成鳥のみとなり、19日に見られたのが最後で、その後は見られなくなった。
- イソシギは月末に数日見られた。
- セイタカシギは2016年8月以来初めて、10月7～9日の3日間だけ見られた。
- アオアシシギは2016年8月以来初めて、10月9日だけ見られた。セイタカシギ1羽と2羽のアオアシシギが一緒にいた。
- カワセミは2016年8月以来初めて、29日に2羽見られた。
- ハシビロガモは今シーズン初めて8日に見られた後、次は間があいて31日に見られた。
- ヒドリガモは今シーズン初めて15日に1羽見られ、次は26日4羽で、今月は2日間のみ。
- マガモは今シーズン初めて21日に1羽見られ、月末にかけて数日間見られた。31日1羽が今シーズン最後となった。

3.4. 2017年11月

この月の観察は、1日から30日までの毎日。見られた野鳥は、留鳥7種類、冬鳥7種類、計14種類。



ほぼ毎日： アオサギ、ダイサギ、コサギ、カルガモ、カワウ、ハシビロガモ（4日～23日）、ヘラサギ（8日～22日）

数日程度： イソシギ、カワセミ、ヒドリガモ

一日だけ： オカヨシガモ、コガモ、オナガガモ、セグロカモメ

水位は10月に続いて低下し、11月13日に10cm以下となった。11月20日の水深5cmを境に上昇に転じ、30日には32cmまで上昇した。

- アオサギはほぼ毎日見られ、複数羽見られることが多く、6～8羽の日が8日あった。
- ダイサギもほぼ毎日見られ、10羽以上の日が16日、23羽の日もあった。アオサギとダイサギは、北池で夜を過ごしたよう。
- コサギもほぼ毎日見られ、10羽以上の日が2日。
- カイツブリは見られなかった。水位が下がり、池の大部分が干上がったことが理由と考えられる。
- カルガモは毎日見られ、20～30羽以上の日が多くあり、50羽の日が2日あった。
- カワウはほぼ毎日見られ、数十羽以上の日が多く、最高は11月5日の108羽。水位が下がり、魚を捕りやすくなったために集まったよう。集団で魚を追い詰めるような振る舞いが見られた。
- イソシギは1～3羽程度が数日見られた。
- カワセミは10月に続いて、2日間1羽だけ見られた。
- ハシビロガモは11月4日～23日の間、1～5羽が毎日見られた。
- ヒドリガモは1～5羽、3日間だけ見られた。
- オカヨシガモは今シーズン初めて、8日に1羽だけ見られた。
- コガモは今シーズン初めて、11日に1羽だけ見られた。
- オナガガモは2016年8月以来初めて、14日に1羽だけ見られた。その後は見られず、今シーズン1度だけだった。

- ヘラサギは2016年8月以来初めて見られ、11月8日～22日の間毎日見られた。ヘラサギは北池で夜をすごしているようで、夜明けよりエサをとり、日出後30分くらいで飛び去った。日中、向ヶ池ですごす日もあれば、向ヶ池にいない日もあった。北池から南東方向へ飛び去るのを確認したので、明石市内の池なのかもしれない。

3.5. 2017年12月

この月の観察は1日～29日と31日の30日間。見られた野鳥は、留鳥8種類、冬鳥4種類、計12種類。



2～3日に一度程度： アオサギ

数日程度： ダイサギ、コサギ、カイツブリ、カルガモ、カワウ、イソシギ、カワセミ、ヒドリガモ、コガモ、オオバン

一日だけ： ハシビロガモ

水位は流入による1日2cmほどの上昇と、24日の降雨による上昇とあわせ、31日には113cmまで回復した。水位の回復により、エサを捕りづらくなったためか、サギ類やカワウの数が減った。

- アオサギは2～3日に一度程度、1羽のみ見られた。
- ダイサギは月初めに3日間見られただけ。
- コサギは1羽のみ、数日見られただけ。
- カイツブリは10月19日以来で、12月18日と20日に1羽ずつ見られた。
- カルガモは11月に比べて大幅に減り、2～8羽が数日見られた。
- カワウも11月に比べて大幅に減り、1～4羽が数日見られた。あたかも、池の魚を食べつくしたかのよう。
- イソシギは1～2羽が、数日見られた。
- カワセミは2日間だけ見られ、12月28日を最後にその後見られていない。
- ハシビロガモは1羽が1日だけ見られた。
- ヒドリガモは1羽が2日間だけ見られた。
- コガモは1～3羽が3日間見られた。
- オオバンは12月9日に今シーズン初めて見られ、26日以降1羽が毎日見られた。

3.6. 2018年1月

この月の観察は1日～8日、11日～31日の29日間。見られた野鳥は、留鳥7種類、冬鳥7種類、計14種類。



ほぼ毎日： カイツブリ、カルガモ、オカヨシガモ、オオバン、キンクロハジロ、ハシビロガモ（1月23日以降）

2～3日に一度程度： イソシギ

数日程度： アオサギ、ダイサギ、コサギ、カワウ、カンムリカイツブリ

一日だけ： ヒドリガモ、タシギ

水位は12月に続いて上昇を続け、1月19日に満水位の160cmに達した。その後は満水位を維持している。

- アオサギは1～2羽が5日間見られた。
- ダイサギは1～2羽が2日間だけ見られた。
- コサギは1羽のみが、中旬以降7日間見られた。
- カイツブリは見られない日もあるが、ほぼ毎日1～2羽が見られ、3羽の日が1日だけあった。
- カルガモはほぼ毎日2～13羽が見られた。
- カワウは1～5羽が5日間見られた。
- イソシギは1羽のみ、2～3日に一度程度見られた。
- ハシビロガモは1月12日～18日の間1～4羽が見られ、23日以降は毎日見られた。月末に向かい数が増加し、31日は25羽を数えた。
- オカヨシガモは3日以降、毎日2～6羽が見られた。
- オオバンは先月に続き毎日見られ、月末に向かい数が増加し、5羽の日もあった。
- キンクロハジロは1月5日に今シーズン初めて見られ、19日以降は毎日見られ、月末に向かい数が増加した。
- タシギは1度だけ見られた。
- カンムリカイツブリは2016年8月以来初めてで、1羽が3日間だけ見られた。

3.7. 2018年2月

この月の観察は毎日の28日間。見られた野鳥は、留鳥7種類、冬鳥4種類、計11種類。



ほぼ毎日： カイツブリ、ハシビロガモ、オカヨシガモ、オオバン、キンクロハジロ
 2～3日に一度程度： カルガモ、イソシギ
 数日程度： コサギ、カワウ
 一日だけ： ダイサギ、ゴイサギ

水位は満水位の160cmを維持。

- ダイサギは1羽が1日だけ見られた。アオサギは一度も見られなかった。
- コサギは1羽だけが数日間見られた。
- カイツブリは見られない日もあるが、ほぼ毎日1～3羽見られた。
- カルガモは2～3日に一度程度、1～7羽見られた。
- カワウは1～4羽が7日間見られた。
- ゴイサギは1羽が1日だけ見られた。
- イソシギは1羽のみ、2～3日に一度程度見られた。
- ハシビロガモは毎日、13～66羽が見られた。
- オカヨシガモはほぼ毎日1～6羽が見られたが、22日以降月末まで見られなかった。
- オオバンは毎日3～6羽が見られた。
- キンクロハジロは毎日2～7羽見られた。

3.8. 2018年3月

この月の観察は1日～21日、25日～31日の28日間。見られた野鳥は、留鳥6種類、冬鳥7種類、計13種類。



ほぼ毎日： アオサギ、カイツブリ、カルガモ、イソシギ、ハシビロガモ、オカヨシガモ、オオバン、キンクロハジロ

2～3日に一度程度： コサギ、カワウ

水位は1ヶ月間、満水位の160cmを維持。

- アオサギは1～3羽見られたが、1羽も見られない日が数日続くこともあった。
- ダイサギは一度も見られなかった。
- コサギは2～3日に一度程度見られた。
- カイツブリは毎日1～7羽が見られた。
- カルガモはほぼ毎日数羽見られたが、10羽を越える日が4日あり、最高は20羽。
- カワウは2～3日に一度程度で、数日続けて見られること、数日続けて見られないこともあった。
- イソシギはほぼ毎日1羽見られた。
- ハシビロガモは月初めから20数羽～50羽前後が見られ、下旬に10羽以下になった。
- ヒドリガモは1月18日以来3月7日再び見られるようになり、その後毎日数羽程度、14羽の日もあり、29日が最後となった。
- オカヨシガモは2月21日以来3月2日に再び見られるようになり、その後毎日2～15羽見られた。
- コガモは12月28日以来3月12日に再び見られるようになり、その後はほぼ毎日1～4羽見られた。
- オオバンは毎日2～6羽が見られた。
- キンクロハジロはほぼ毎日2～9羽見られた。
- ホシハジロは3月7日、2016年8月以来初めて見られ、その後毎日1～2羽見られた。

3.9. 2018年4月

この月の観察は1日～30日の30日間。見られた野鳥は、留鳥8種類、冬鳥7種類、計15種類。



- ほぼ毎日： カイツブリ、カルガモ、ハシビロガモ（16日まで）、オカヨシガモ（19日まで）、オオバン、キンクロハジロ（9日まで）、ホシハジロ（9日まで）
- 2～3日に一度程度： アオサギ、イソシギ、カワウ
- 数日程度： コサギ、バン、タシギ
- 1日だけ： ダイサギ

水位は1ヶ月間、満水位の160cmを維持。

- アオサギは1～2羽が2～3日に一度程度見られた。
- ダイサギは1羽が1日のみ見られた。
- コサギは1羽が、上旬に5日間、下旬に1日だけ見られた。
- カイツブリは毎日見られ、多い日は8羽を数えた。
- カルガモは月前半に1～5羽が、2～3日に一度程度、月後半はほぼ毎日見られた。
- カワウは1～2羽が2～3日に一度程度見られた。
- バンは1～2羽2日間だけ見られた。
- イソシギは1羽のみ、2～3日に一度程度見られた。
- ハシビロガモは4月11日までは毎日みられ、間が空いて16日1羽みられたのが今シーズン最後。
- オカヨシガモは2～6羽がほぼ毎日19日まで見られた。
- コガモはほぼ毎日1～5羽が見られた。
- オオバンは毎日見られ、1日に3羽から11日に2羽になり30日に1羽になった。
- キンクロハジロはほぼ毎日見られ、9日が今シーズン最後。
- ホシハジロはほぼ毎日見られ、9日が今シーズン最後。

3.10. 2018年5月

この月の観察は1日から31日の31日間。見られた野鳥は、留鳥8種類、冬鳥2種類、夏鳥1種類、計11種類。



- ほぼ毎日： カイツブリ、オオヨシキリ（3日より）、コガモ（11日まで）、オオバン（5日まで）
 2～3日に一度程度： カルガモ、カワウ
 数日程度： アオサギ、ダイサギ、イソシギ、バン
 1日だけ： コサギ、ゴイサギ

水位は1ヶ月間、満水位の160cmを維持するが、数日間数cm～14cm低下することがあるが、その後満水位に回復。

- アオサギは1～3羽が6日間見られた。
- ダイサギは1羽が2日見られた。
- コサギは1羽が1日だけ見られた。
- ゴイサギは29日に1羽が一度だけ見られた。
- カイツブリは毎日1～3羽見られた。
- カルガモは1～3羽が、2～3日に一度程度見られた。
- カワウは1～2羽が2～3日に一度程度見られた。
- バンは上旬に1羽が、上旬に1～2羽4日間連続で見られた。
- イソシギは1羽のみ2～3日に一度程度、20日に1羽の後見られない。
- コガモは11日まで毎日2～4羽が見られた。今シーズンの冬鳥は11日が最後となった。
- オオバンは5日まで毎日1羽見られた。
- オオヨシキリは3日以降毎日見られた。ヨシ林で盛んにさえずっている。

3.11. 2018年6月

この月の観察は18日から30日の13日間。見られた野鳥は、留鳥6種類、夏鳥2種類、計8種類。



ほぼ毎日： カイツブリ、カワウ、オオヨシキリ

2～3日に一度程度： アオサギ、ダイサギ

数日程度： カルガモ、コサギ

1日だけ： ササゴイ

水位は満水位の160cmを維持するが、数cm程度低下することがあるが、その後満水位に回復。20日に強い雨が降り、水位は166cmまで上昇した。

- アオサギは1～2羽が4日間見られた。
- ダイサギは1羽が5日間見られた。
- ササゴイは20日に1羽見られた。
- コサギは1～4羽が3日間見られた。
- カイツブリはほぼ毎日1～2羽見られた。
- カルガモは2～5羽が、2日間見られた。
- カワウはほぼ毎日1～3羽見られた。
- オオヨシキリは1～3羽がほぼ毎日見られた。月末にかけて鳴き方が減った。

3.12. 2018年7月

この月の観察は1日から31日の31日間。見られた野鳥は、留鳥7種類、夏鳥4種類、計11種類。



ほぼ毎日： アオサギ、ダイサギ、コサギ（中旬以降）、カイツブリ、カワウ

2～3日に一度程度：

数日程度： カルガモ、オオヨシキリ、ゴイサギ

1日だけ： ササゴイ、アマサギ

水位は月初めは満水位の160cm前後、台風7号による雨で167cmまで上昇し、その後徐々に141cmまで低下し、台風12号の雨により満水位に回復。

- アオサギは1～2羽がほぼ毎日見られた。
- ダイサギは1～2羽がほぼ毎日見られた。
- コサギは中旬以降、1～3羽がほぼ毎日見られた。
- ゴイサギは中旬から下旬にかけて1羽が5日間見られた。
- アマサギは9日に一度だけ3羽が上空を通過するのが見られた。
- ササゴイは23日に1羽が上空を通過するのが見られた。
- カイツブリは、月初めよりほぼ毎日1～2羽見られ、17日にヒナ4羽が現れ、その後は1～6羽が毎日見られた。
- カルガモは1～2羽が、8日間見られた。
- カワウはほぼ毎日1～2羽見られた。
- オオヨシキリは鳴かなくなり、上旬に1～2羽が3日間見られた。
- コアジサシは下旬に3日間見られた。19日は50羽ほどが水面にダイブするのが見られたそう。

4. 気温

10月から4月末までの期間の、アメダス明石地点の日平均気温の変化を下図に示す。10月より2月末まで、2017-2018シーズンの方が2016-2017シーズンよりも気温が低く、2月末より逆に気温が高くなっている。2017-2018シーズンの冬は寒かったという印象と一致している。2月末より気温が上がり、春の歩みが速かったことがわかる。

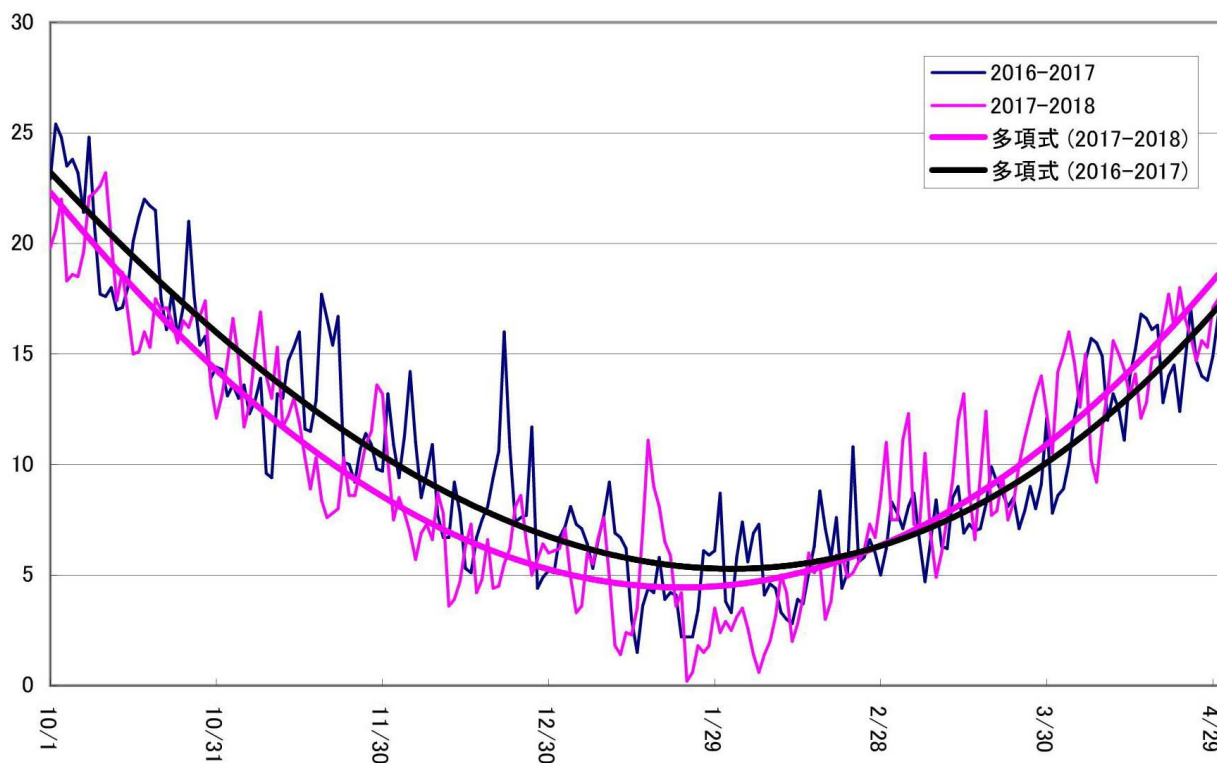


図 アメダス明石地点の日平均気温

カモ類がシーズン最初に見られた日は、2017-2018シーズンの方が、17～65日早い（キンクロハジロを除く）。冬のはじめに昨年と比べ気温が低かったことでカモ類の来訪が早かったのかもしれない。

表 シーズン最初に見られた日と延べ数

	2016-2017 シーズン		2017-2018 シーズン		延べ数比
	最初の日	延べ数	最初の日 (前年比)	延べ数	
ハシビロガモ	10月25日	1750	10月8日 (17日早い)	2437	1.39
ヒドリガモ	11月4日	286	10月15日 (20日早い)	89	0.31
マガモ	11月7日	13	10月21日 (17日早い)	5	0.38
キンクロハジロ	12月14日	302	1月5日 (21日遅い)	391	1.29
オオバン	12月17日	191	12月9日 (23日早い)	398	2.08
ミコアイサ	1月3日	19	見られず	0	-
オカヨシガモ	1月12日	2	11月8日 (65日早い)	474	237.0
コガモ	1月15日	50	11月11日 (65日早い)	141	2.82
オナガガモ	見られず	0	11月14日	1	-

2016-2017 シーズンと 2017-2018 シーズンについて、カモ類を主とした冬鳥の北池での滞在期間を下図に示す。

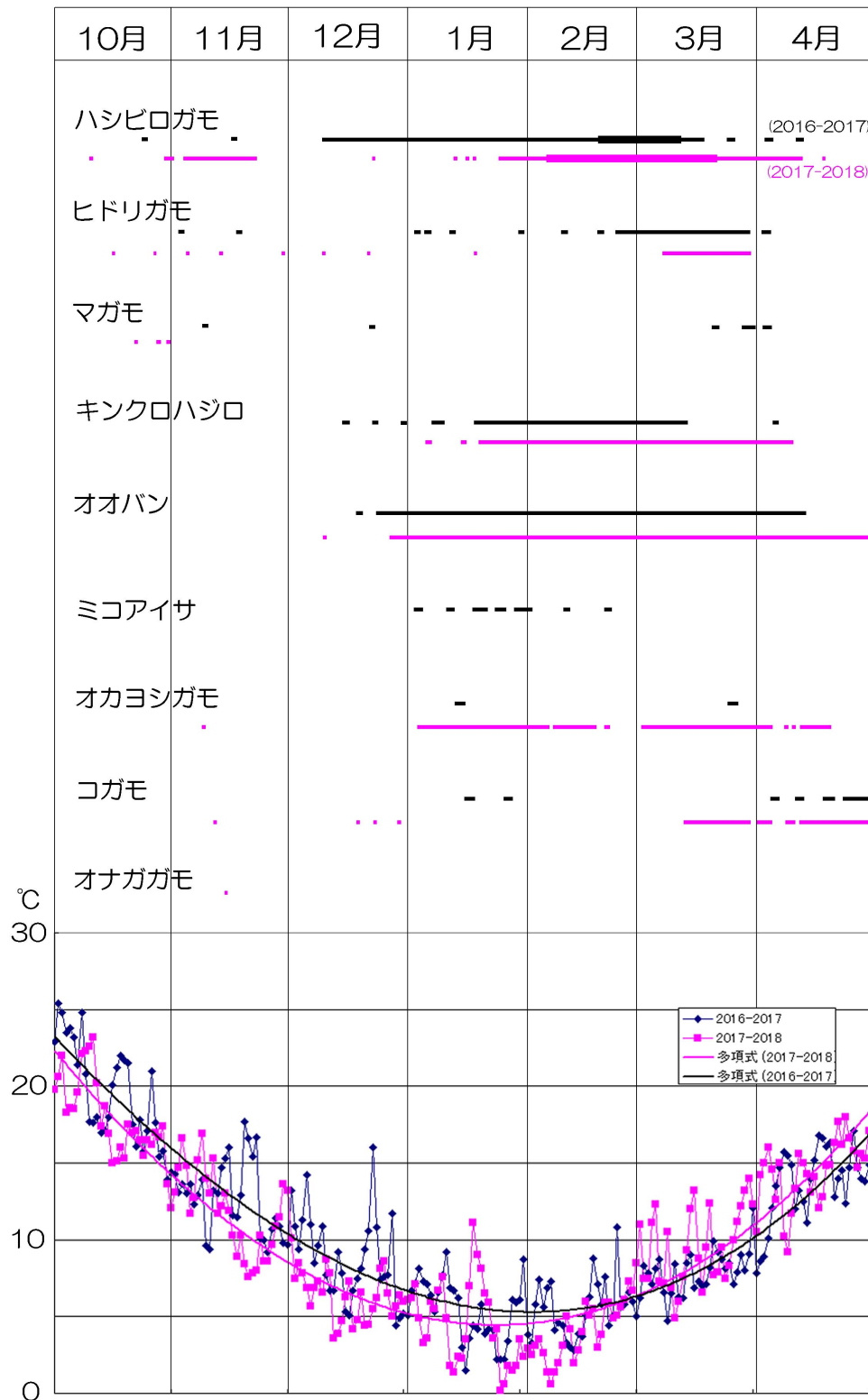


図 日平均気温の変化と冬鳥の北池での滞在期間

5. 水位の変化

北池南西部のポンプ庫付近に水位の目盛尺が設置してあり、2017年7月より水位の記録を始めた。

北池の水位は、満水位の160cmと最も低下した場合の5cmの間で変化する。北池の北西部に越流堰があり、その上面は目盛尺の160cmの高さで、上流からの流入と越流がつりあっている状態が満水位にあたる。強い雨が降った直後は、満水位の160cmよりも2~3cm高くなることもあるが、時間とともに満水位の160cmに落ち着く。

北池の水は農業用水道を通して、水田や畑作に利用されており、需要期には水位は徐々に低下する。集中豪雨や台風の場合は、急激に水位が変化するが、堰を開放することで水位は調節されている。

下図に2017年7月~2018年4月末までの水位の変化(水色)を観察された野鳥の総数(黒色)とともに、グラフとして示す。

7月末より少しずつ水位は低下しているが、降雨により急な回復が見られる。10月には水位はかなり下がり21日に17cmまで低下したが、台風の雨により23日に140cmまで急上昇したが、堰の開放により28日に32cmまで低下している。降雨により10月30日に54cmまで上昇した後、徐々に低下し11月20日に5cmにまで低下した。その後は上流からの流入と降雨により徐々に上昇し、1月19日に満水位に達した。

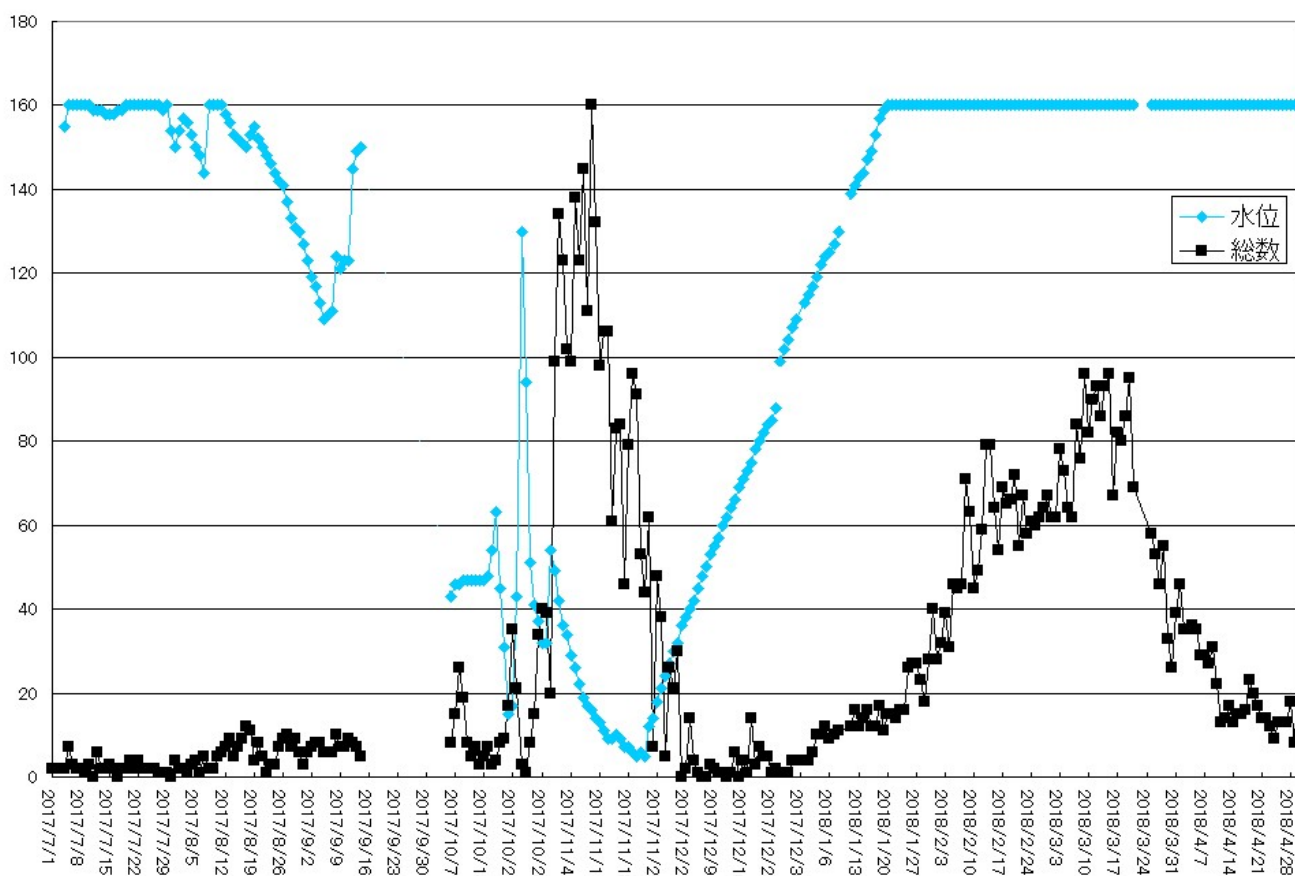


図 水位と野鳥総数の変化

観察された野鳥の総数は、10月末~11月末の期間と2月~3月にピークが見られる。10月末~11月末のピークは、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、カルガモが多く集まったことによる。2月~3月のピークは、カモ類などの冬鳥の来訪による。

10月中に稲の刈り取りが終わると、農業用水としての利用はほとんどなくなり、池のメンテナンスのために水位が下げられる。11月20日水位は5cmとなり、最も低くなった。池の大部分が干上がり、水面は満水時の3分の1ほどに縮小している。このときの水面の範囲を下図に示す。

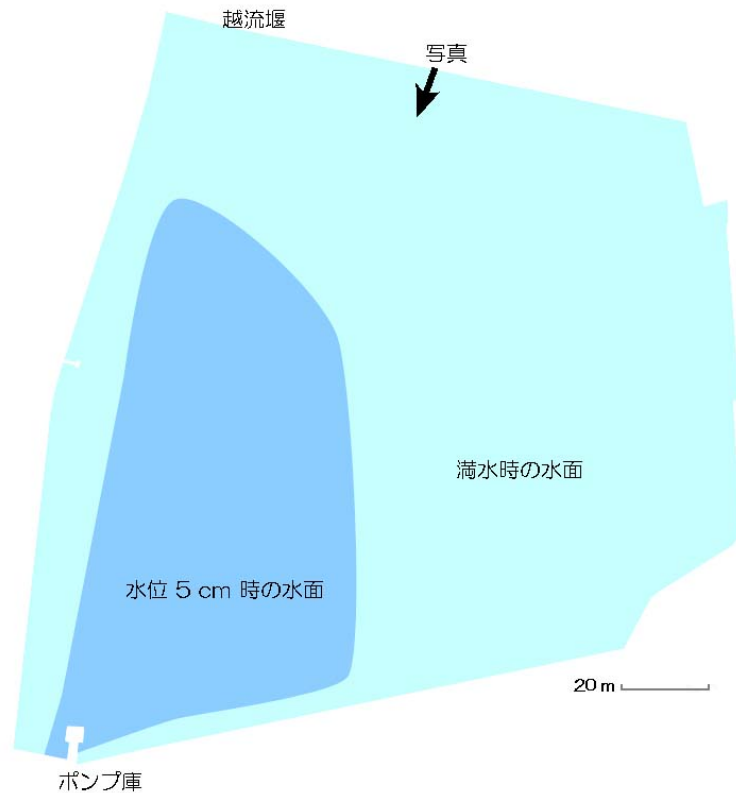


図 満水時と水位 5cm 時の水面

カワウ、カルガモ、ハシビロガモは縮小した水面を泳いでエサを捕り、アオサギ、ダイサギ、コサギは干上がった部分だけでなく、残った水に腰まで浸かってエサを捕っていた。水位が下がるとエサを捕りやすくなることから、野鳥が多く集まる理由と考えられる。



写真 北側よりポンプ庫方面 干上がった部分に鳥の足跡（撮影：2017年11月20日水位5cm）

野鳥の総数が最多の160羽を数えた11月9日に見られたのは、アオサギ2羽、ダイサギ21羽、コサギ5羽、カルガモ50羽、カワウ80羽、ハシビロガモ1羽、ヘラサギ1羽。

6. カワウ

カワウは年間を通じて北池で見られるが、10月末～11月にかけて北池の水位が低下する時期に数多く集まり、池の魚を食べ尽くすのではないかとと思われるような振る舞いが見られる。水位の変化と観察されたカワウの数、あわせてサギ類（アオサギ、ダイサギ、コサギ）の合計を下図にグラフとして示す。

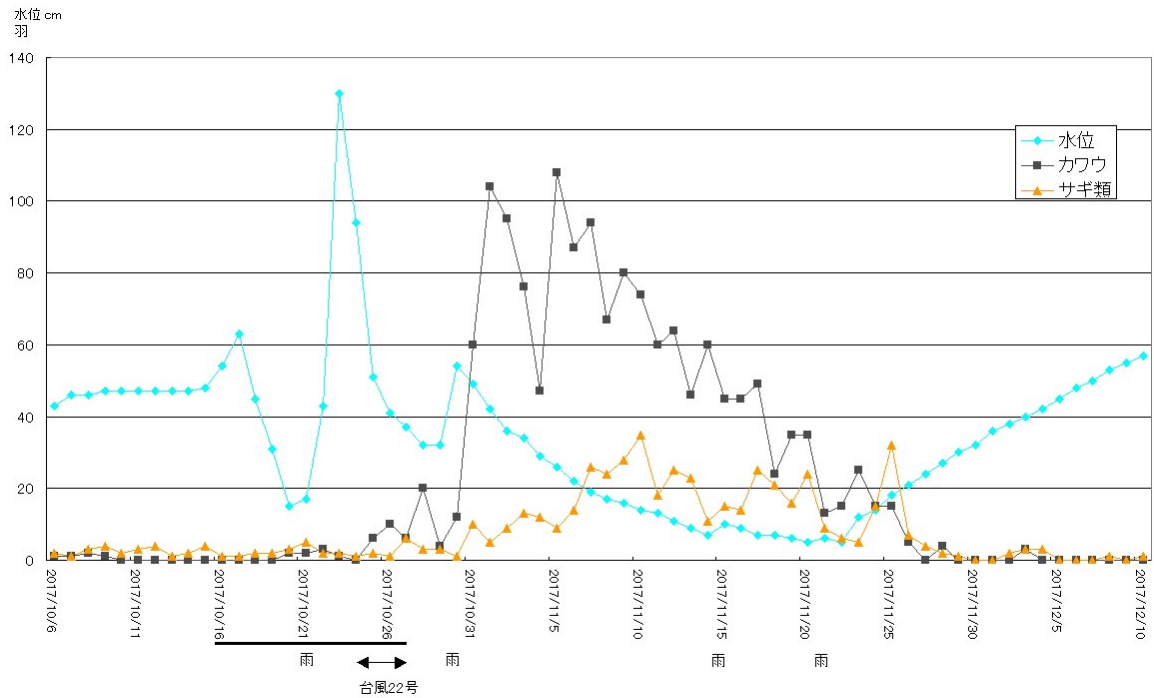


図 水位とカワウとサギ類の数の変化グラフ

北池で見られるカワウの数は、2017年10月24日までは1～3羽程度であったが、10月25日から増え始め、11月5日の108羽を最高に、その後徐々に減少し11月27日に10月24日以前と同じ数羽程度に戻った。

天気の良い日は、日の出の10分前頃から、東方より数羽～10数羽が雁行状に列を成して次々に飛来する。曇りの日は明るくなるのを待っているのか、天気の良い日より集まるのが遅い。

北池に來襲したカワウは、数十羽ほどの群れで魚を追い込みながら、次々と魚を捕らえ丸呑みにする光景が見られた（写真）。カワウの周囲の水面は波立っており、水中に潜っているカワウを含め、群れのカワウのエネルギーの強さを感じる。

日の出後約30分ほどで、カワウは数羽～十数羽の群れで、ぞくぞくと飛び去ってゆき、日中の北池にはカワウはほとんど見られない。

北池の水量を見積もると、満水時は約26,000 m³、水位5cm時は約1,200 m³、水位5cm時水面は満水時の約3分の1に縮小し、水量は約20分の1となる。水量が減ると、水中の魚の密度が最大で20倍まで上がることになる。カワウにとって、水位が下がることは魚を捕らえ易くなることと思われる。



写真 群れで魚を追い込むカワウ（撮影：2017年11月2日水位36cm）

カワウと同じようにこの時期、サギ類も北池に多く集まる。11月10日が最多で、アオサギ2羽、ダイサギ16羽、コサギ17羽が見られた。



写真 アオサギとダイサギ（撮影：2017年11月13日水位9cm）

水位が下がり水面が縮小している北池で、アオサギ、ダイサギ、カルガモは夜を過ごしている。



写真 北池で夜を過ごすアオサギ、ダイサギ、カルガモ
(撮影：2017年11月14日午前2時16分、水位7cm)

7. ガンカモ類生息調査

環境省自然環境局生物多様性センターが実施しているガンカモ類生息調査の平成 24～28 年度（5 年度分）の調査地点別羽数データより、東播磨地域（明石市、加古川市、高砂市、加古郡）の調査地点（61～63 地点）について集計し、5 年分の平均羽数を算出した。名前の前の○印は、2 年間に北池で見られたカモ類を示す。

東播磨地域では、オオハクチョウなどハクチョウ類およびマガンやヒシクイなどのガン類は記録されていない。下表に掲載されていないカモ類、オシドリ、クロガモ、シノリガモ、コオリガモ、リュウキュウキンクロ、アカツクシガモ、シマアジ、アカハシハジロ、オオホシハジロ、メジログアモ、アカハジロ、ケワタガモ、コケワタガモ、アラナミキンクロ、ヒメハジロ、クビワキンクロ、コウライアイサも記録されていない。

表 ガンカモ生息調査より東播磨地域で記録されたカモ類

種 類	5 年度 平均羽数	種 類	5 年度 平均羽数
○マガモ	475	スズガモ	1,303
○カルガモ	526	トモエガモ	1
○コガモ	514	ビロードキンクロ	2
ヨシガモ	42	ホオジログアモ	1
○オカヨシガモ	361	ウミアイサ	22
○ヒドリガモ	1,389	カワアイサ	37
○オナガガモ	317	○ミコアイサ	256
○ハシビログアモ	831	ツクシガモ	11
○ホシハジロ	1,130	アメリカヒドリ	1
○キンクロハジロ	474		

東播磨地域に飛来するカモ類のうち、ガンカモ生息調査で数百羽以上が記録されたカモ類（マガモ、カルガモ、コガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビログアモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ミコアイサの 10 種類）は、そのほとんどの種類が北池に飛来していることがわかる（スズガモを除く）。数羽～百羽以下のカモ類はいずれも北池で見られていない。

8. 考察とまとめ

8.1. 野鳥の種類

2016年8月より2018年7月までの2年間に見られた野鳥(主に水辺の鳥)は30種類。1年目は20種類、2年目は29種類と増えているが、1年目は野鳥観察を始めたばかりで見落としがあったのかもしれない。

8.2. 野鳥が北池に飛来する理由

8.2.1. エサがあるから

北池には60~80cm大のコイが数十匹以上おり、春に産卵し稚魚が成長する。コイのほかにモロコなどの小魚もおり、サギ類やカワウがエサとしている。サギ類やカワウなどは、夜明けとともに飛来することが多い。夕方暗くなってからアオサギがいることがあり、短期間のねぐらとしている可能性がある。

10月から11月にかけて水位が低下し、池の半分以上が干上がる状態となり、エサが捕りやすくなるようで、多くの野鳥が北池に飛来する。アオサギ、ダイサギ、コサギなどのサギ類も多く飛来し、この時期は北池をねぐらとしている。カワウは夜明けとともに大群となって北池に飛来し、30分ほどの間集団で狩を行いった後飛び去る。

旅鳥のセイタカシギやアオアシシギも、水位が低下した北池に数日間滞在することがある。エサがあること、安全であることなどが滞在の理由と考えられる。

8.2.2. 営巣のため

2016年8月~9月、2017年6月~9月、2018年6月~7月の、3シーズン連続してカイツブリのヒナが見られており、ヨシ林の中でカイツブリが営巣している。1月から4月にかけて、カイツブリの成鳥は最大で8羽見られるが、営巣するのは一組のつがいだけ。他の成鳥は別の池で営巣しているのかもしれない。ヨシ林は年々縮小しているように見えるので、カイツブリの営巣がいつまで続くか心配もある。数年前にはカルガモのヒナを見たという人がいるが、この2年間にはカルガモのヒナは見られない。

8.2.3. 越冬のため

秋から春にかけて、ユーラシア大陸よりカモ類が飛来し、北池でも越冬する。最も数が多いのは、ハシビロガモで、最盛期には60羽を越える。数は少ないが、キンクロハジロ、オオバン、オカヨシガモなども、北池を越冬場所としている。ヒドリガモ、マガモ、ミコアイサ、コガモ、オナガガモなどは、他に越冬場所があるようで、少数が短期間だけ見られる。

8.3. 北池の環境

北池はコンクリートで保護された人工的なものであるが、野鳥にとっては餌場であり、自然界の食物連鎖の一端が見られる。

下水道整備により、以前に比べ水質は改善されたとはいえ、気温が高いとき、風向きによっては、ヘドロ臭が気になることがある。池の底の泥がヘドロ化しないよう、更なる水質の向上のための策が求められる。水草があれば、水中での光合成により酸素が供給され、水中環境の改善が期待される。

狐狸ヶ池では3年ほどの間にミドリガメの駆除に成功し、スイレンやヒシ、オニバスなどの水草が復活している。狐狸ヶ池での成功例にならい、北池でもミドリガメを駆除する対策が必要と思われ、なるべく早い着手が望まれる。

9. おわりに

北池の野鳥観察は丸 2 年になり、野鳥の識別もだいぶできるようになってきた。記録された野鳥は、1 年目 20 種類、2 年目は 29 種類と増えている。野鳥を見ることに慣れてきたからかもしれない。上空を通過する野鳥の飛ぶ姿で識別できるようになってきている。

この 2 年間にも、北池の周囲は宅地化が進んでいる。北池もコンクリートで改修され人工的な環境だが、飛来する野鳥を通して、自然界の食物連鎖を見ることができ、弱肉強食の厳しい野生がそこにあることが分かる。

高温や局地的豪雨など、異常な気象現象が日常化しつつある今、自然環境を守る取り組みを、できることから始めることが必要と思われる。人にも野鳥にも優しい社会となるように。

北池の水質は以前に比べ良くなっているが、昔あった蓮などの水草はまったく見られず、植えられたヨシ林も年々縮小傾向にある。ミシシippアカミミガメが北池にもたくさん見られる。他の池において、ミシシippアカミミガメを駆除したことで水草が復活した例もあるようである。

水草があれば、水中での光合成により溶存酸素量も増え、水中生物にとって良い環境となることが期待される。水中生物が増えると、自然界の食物連鎖がより活発となり、飛来する野鳥の種類や数にも影響が及ぶと思われる。

著者： 衣笠 誠一郎

住所： 675-0162 兵庫県加古郡播磨町二子 130

メール： kinugasa-m@s8.dion.ne.jp

参考資料

東播地域のため池とその周辺の野鳥観察手帳、平成 29 年 3 月発行

決定版日本の野鳥 650, 株式会社平凡社, 2014

野鳥観察ハンディ図鑑新水辺の鳥改訂版, 公益財団法人日本野鳥の会, 2013

ガンカモ生息調査 東播磨地域の調査地点 (63 地点)

318 平荘湖	339 野村池	360 跡池
319 地知行池	340 竜ヶ池	361 猫池 (八幡)
320 加古川河川敷	341 黒星池	362 小池 (国安)
321 里池	342 皿池 (西島)	363 中ノ池 (見谷)
322 千波池	343 八十島池	364 瀬戸川河口
323 入ヶ池	344 琵琶池	365 北池
324 花園池	345 下川池	366 狐池 (野口)
325 寺田池	346 釜谷池	367 上新池 (神野)
326 天満大池	347 皿池 (神野)	368 布池 (神野)
327 長池. 諸池	348 広谷池	369 城之池 (国岡)
328 雲楽池	349 宮池	371 野の池 (二見町)
329 新池 (清水)	350 青之池	372 大池 (秋ヶ池南)
330 中池. 片淵池	351 加古大池	373 駅ヶ池 (野口町)
331 長法池	352 新池 (見谷)	374 新池 (国安)
332 大池 (西島)	353 六軒屋池	375 皿池 (別府)
333 皿池 (福里)	354 亥ノ池 (長坂寺)	904 明石川河口
334 喰ヶ池	355 琴池	905 明石公園外堀
335 皿池 (江井島)	356 満溜池	906 明石公園剛ノ池
336 野々池 (八幡)	357 奥ノ池	1002 谷池 (和坂)
337 2号池	358 谷池 (江井島)	1016 曾根港
338 今池	359 溝ヶ沢池	9914 加古川河口

北池の毎日の観察は、kitaike.jpn.org をご覧ください。